

項目	入力欄
科目名	演習（社会調査論）
教員名	今西一男
授業概要とねらい	<p>1 テーマ 都市の再生と住民による「まちづくり」 - コミュニティ・空間・計画 -</p> <p>2 ねらい 近年、都市は再生の対象となった。特に人口減少社会の本格的な到来は、都市に新たな課題を提起し、その解決のための「まちづくり」や都市計画に変革を迫っている。 この状況をめぐり、政策は果たして住民にとって「あるべき」都市を提示しうるのであるか。また、住民による自主的な「まちづくり」は、「あるべき」コミュニティ・空間を構想・実現しうるのであるか。そして、そのとりくみを引き出す方途として計画を機能させることは可能なのか。 この演習では主に都市開発の現場における実証研究と演習室における理論研究との往復から、このテーマを深めていく。</p>
望ましい水準	この演習では都市計画論と都市社会学という学問分野を、社会調査論という社会認識の術を使って架橋しながら、詳細に検討していく。そのバランス感覚を身につけることが求められる。
授業計画	<p>この演習は共同研究である社会調査・文献精読、個々の問題意識に基づく卒業研究から構成される。いずれの内容も社会調査としての過程を重視することが、この演習の特徴である。なお、これまでの共同研究による社会調査では、例えば福島市における事例研究としては蓬萊団地におけるコミュニティ・サロンの実験的運営や人材バンクの設立検討を含めた郊外住宅団地の再生に関する研究などを行ってきた。</p> <p>全国調査としては、近隣では仙台市などでの都市開発やコミュニティ・空間の実態調査を行ってきた。遠方では首都圏における都市再生の現地調査などを毎年度の「ゼミ合宿」や共同研究として実施している。これまでの継続的な研究の延長線上に立って、2018年度においてもさらに研究・調査の展開を図っていく予定である。</p> <p>〔前期〕</p> <p>(1)社会調査 ・年度当初に第1回フィールドワークとして1-2日程度の調査を行う。 ・次に量的調査等も含めた第2回フィールドワークを行い、成果を行政政策学類学生論集『嶺風』に投稿する。 ・夏季休業期間に第3回フィールドワークとして大都市圏での2-3日程度のゼミ合宿を行う。</p> <p>(2)文献精読 ・テーマに即した基礎的な文献を1冊程度精読する。 ・時間的余裕があれば社会調査論に関する論文等を提供するので精読する。</p> <p>(3)卒業研究 ・3年生についてはテーマの確定に向けた基礎的な文献研究や社会調査を進める。 ・4年生については章立て構成を行いつつ、執筆の基礎となる社会調査を進める。</p> <p>〔後期〕</p> <p>(1)社会調査 ・冒頭のテーマに即して、後期をかけて量的調査等も含めた後期共同研究を行う。 ・後期共同研究の成果は公開研究発表会を開催して一般にも公開する。</p> <p>(2)文献精読 ・後期共同研究の内容に即しつつ、専門的な文献を1冊程度精読する。 ・同じく後期共同研究の内容に即しつつ、社会調査論に関する論文等を精読する。</p> <p>(3)卒業研究 ・3年生についてはこの段階でテーマを確定し、構想を固める。 ・4年生については本論の執筆、またそのための社会調査にとりくむ。 ・卒業論文は公開研究発表会において口頭発表を行う。</p>
教材・教科書	テキストは開講の事前に行う予定の打ち合わせにおいて、受講者それぞれの関心に沿って決定する。学習の指針としては、ひとまず参考図書を掲げておく。なお、テキスト選定以後も、「まちづくり」、都市計画論、都市社会学、社会調査論等に関連する文献を中心に道真指示する。
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> さしあたり、以下などを学習の指針とすること（著者名五十音順）。 今西一男（2008）『住民による「まちづくり」の作法』、公人の友社、1,000円＋税 小泉秀樹編（2016）『コミュニティデザイン学 その仕組みづくりから考える』、東京大学出版会、3,200円＋税 袁原敬他著（2014）『白熱講義 これからの日本に都市計画は必要ですか』、学芸出版社、2,200円＋税
参考URL	研究室ホームページは以下のとおり。 http://www.ipc.fukushima-u.ac.jp/a007/index.html
授業以外の学習	<p>授業計画に示したとおり、この演習では正規の講義時間以外に社会調査等を実施していくことになる。合宿によるフィールドワーク等も行うので、留意されたい（事前に日程調整を行う）。このように、この演習では社会調査の実施にあたるため、その基礎知識を必要とする。必ず「社会調査論」を受講すること。</p> <p>そして平素においては毎回の演習に臨むにあたり予習・復習を心がけるとともに、テーマに関連する社会的な動向に常に関心を払うこと。それら一連の過程ではグループワークが多々生ずるので、積極的にとりくむこと。また、卒業研究とも関連して、自ら「まちづくり」の実践に赴くことを強く推奨する。</p>
成績評価の方法	出席、報告、議論（参加・運営）、課題、卒業研究等を総合して評価する。自主的なワーキングを重視しているため、積極的に参加すること。そして、フィールドワークに基づいて執筆するフィールドノート、文献精読の区切りごとに執筆する書評等、各種課題に自主的にとりくむこと。なお、これらの成果や卒業研究は研究室として『年報』にまとめ蓄積・公表している。
成績評価の基準	<p>上記の方法に即し、おおよそ以下の基準によって評価することを考えている。</p> <p>A：すべての項目で高い水準に達している</p> <p>B：いずれかの項目で高い水準に達している</p> <p>C：すべての項目で水準に達している</p> <p>D：いずれか1項目でも水準に達していない</p> <p>F：2項目以上で水準に達していない（不合格）</p>
オフィスアワー	この演習では特にオフィスアワーは定めない。おそらく、そのような時間を設ける必要などないほど、濃縮された時間・空間を用意しておくつもりである。もちろん、質問等がある時には随時受け付ける。
留意点・注意事項	フィールドワークでの記録のため、必ずデジタルカメラを用意すること。また、メンバー間でのデータ交換の場面も多くあるので、パソコン環境特にインターネット環境を整備すること。
その他	連絡先メールアドレスは以下のとおり。 imaniishi@ads.fukushima-u.ac.jp
ディプロマポリシー大区分1	地域と行政専攻のディプロマポリシー
ディプロマポリシー小区分1	応用能力（地域と行政専攻）
ディプロマポリシー大区分2	
ディプロマポリシー小区分2	
ディプロマポリシー大区分3	
ディプロマポリシー小区分3	
ディプロマポリシー大区分4	
ディプロマポリシー小区分4	
ディプロマポリシー大区分5	
ディプロマポリシー小区分5	
ディプロマポリシー大区分6	
ディプロマポリシー小区分6	
ディプロマポリシー大区分7	
ディプロマポリシー小区分7	
ディプロマポリシー大区分8	
ディプロマポリシー小区分8	
ディプロマポリシー大区分9	
ディプロマポリシー小区分9	
ディプロマポリシー大区分10	
ディプロマポリシー小区分10	
ディプロマポリシーその他	